

FUEKI

[特集] 「ここに生きる、ここで創る」—地域を紡ぐ、モノづくり—

[活動レポート] 地域の宝を育む



Monochrome Bird 青地大輔

私が写真をはじめた頃は、まだフィルム全盛で、デジタルカメラというものは存在していなかった。ちょうど社会人になったぐらいのタイミングにデジタル一眼レフが世の中に姿をあらわしてきたと思う。そして10年もたたないうちにフィルムは衰退し、デジタルに変わり、多くの人が写真を気軽に楽しめるように変化した。しかし、気軽になった一方で、1カットに込める思いというのが軽視される傾向にある。いくらでも撮れて不要なものは簡単に消せるデジタルでもフィルムの時と同じように1シャッターに込める思いというものは変わらず大切にしたいものだ。

今年は、自身にとっては珍しく新年早々後楽園で丹頂を見ていた。私が見ていたのは全体のフォルムではなく広げたツバサの部分だ。首から先が写り込んでないことで違和感を持たれる方もいるかもしれないが、よく考えてほしい。この姿は何か似てないだろうか。サモトラキで発掘されたニケの女神像だ。体の一部がなくなった状態で展示されているにもかかわらず、不完全な形ではあるが鑑賞者に完全な美について考えさせてくれている。リニューアルした不易の横に白紙を置き各々が思うその続きを創造し描いてみるのはどうだろうか。

あおちだいすけ／写真家、ブルーワークス PHOTO & DESIGN Office 代表、犬島時間実行委員会代表。1973年岡山市生まれ。写真及びデザイン業を営むとともに2004年よりアートを通じ、コミュニケーションを図ることを目的としたプロジェクト「犬島時間」を企画主催。人材の育成と発掘・地域づくりに取り組む。2013年福武文化奨励賞、岡山市文化奨励賞受賞。

Editor's Comments

不易流行 ～変わらぬ思いと変わる姿～

私たちは、この財団機関誌「不易」を毎号のテーマに沿って取材してきましたが、取材を深めれば深めるほど、それを表現できないもどかしさを感じていました。教育文化の活動や現象のご紹介だけではなく、それに携わる人の情熱や暮らし、さらに地域から見た視点まで掘り下げなければならぬと。

このため今回から、発行回数を年3回としてページを増やすことにしました。県内で行われている様々な活動の「皮膚」だけでなく、「筋肉」や「血管」できれば「骨」まで、少しでも感じていただける内容にしたいと思っています。

また、タイトルが「いかにも堅そうとつきにくい」とのご指摘もあり、何だろうと多くの人々に手に取っていただけるように「FUEKI」としましたが、「不易」の思想はきちんと表現し、保ち続けたいと考えています。

財団の目的は、岡山県内で教育文化に携わる人々の活動を応援して、地域を振興発展させることにあります。福武理事長の言葉をお借りすれば、それぞれの地域で「人々が幸せになれる、いいコミュニティづくり」(お年寄りの笑顔があふれる社会づくり)です。

昨年7月、17歳のマハラ・ユスフザイさんは、世界の子どもや女性が等しく教育を受ける権利を求め国連で演説をしましたが、「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、1本のペンが世界を変える」との言葉で終わりました。私はこれを熱い思いを持って教育文化に携わる人々への応援メッセージでもありと受け取っています。

今、地域には多くの課題があります。しかし、教育と文化の力は、地域や国、世界を変えることができるのだと信じています。(財団・中野)

機関誌

不易

F U E K I vol.54 2014.5.25

題名「不易」には、「時代を超えて優れたものに共通する本質的なもの」を大切にしたいという谷口澄夫初代理事長の思いが込められています。

編集・発行:

公益財団法人 福武教育文化振興財団

〒700-0807 岡山市北区南方3-7-17
株式会社ベネッセコーポレーション本社3F
TEL 086-221-5254 FAX 086-232-3190
URL <http://www.fukutake.or.jp/>
E-mail eczaidan@fukutake.or.jp

制作:
株式会社 吉備人
デザイン:
田中雄一郎(QUA DESIGN style)
印刷:
広和印刷株式会社